



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

アブラハムとサラの息子、イサクの誕生に関して、この「笑い」という言葉が、とても重要である。イサクの名の意味は「彼は笑う」(創17:19)である。実は、その誕生を神から告げられたアブラハムは、当初、「百歳の男に子供が生まれるだろうか。九十歳のサラに子供が産めるだろうか。」(創17:17)と笑ったと聖書は記している。また、その後、突然の来客をもてなすアブラハムに告げられた「来年の今ごろ、あなたの妻サラに男の子が生まれているでしょう。」(創18:10)という言葉をも「ひそかに笑い」(創18:12)そのことを指摘されると、「わたしは笑いませんでした」(創18:15)と、あわてて打ち消したと聖書は語るのだ。

西人なら、年老いた老夫婦に向かつて、大真面目な顔をして「来年の今頃、あなたたちに子供が生まれる」などというとき、思わず「そんなアホな！」とツツコミを入れてしまいたくなるに違いない。新年早々、不謹慎なこと

瞑想

サラは言った。

「神は私を笑わせてくださいました。」

創世記21:6

主幹牧師 榎本 恵

の魚と5つのパンで5千人を養う。見えなかった男の目に唾で土をこねて塗りつけ、その目を開き(ヨハネ9:1-67)、耳が聞こえず、舌の回らない人の両耳に指を入れ、「エツファタ(開け)」と言ったとたん、その耳が聞こえるようになる(マルコ7:32-35)。

ではないか。しかし、その笑いは、ただの乾いた皮肉屋の笑いではない。不信心者の嘲りの笑いではない。カトリックの神父アウグスチヌスは次のように書く。「アブラハムが笑ったということは、喜ぶ者の歡喜の姿であって、信じない者の嘲笑ではない」、「母もまた……疑いながら喜びのあまり笑った」(宮田光雄著『キリスト教と笑い』より)と。友よ、そうなのだ。「神は私を笑わせてくださいました。」(創21:6)それはどんな不信心な冷めた笑いであっても、必ずそれを喜ぶと感謝に溢れる笑いへと変えてくださる。この笑えぬ現実の只中であって、必ずイサク(笑い)の誕生を喜ぶ「盛大な祝宴」が開かれる。新しい年、私たちはそんな笑いを待ち望もうよ。

第二回リトリートアシュラム

2022年 11月28日 ~ 12月2日

第四十七回 加太アシュラムに参加して

キャロル師より手書き(日本語)のメッセージが届きましたので、ご紹介いたします。

Dear Ashram Brothers and Sisters

アシュラムの愛する皆さんへ  
この陽素晴らしい時を皆と  
一緒に過ごしてとても  
喜びに満たされました

キャロルは3回目でしたがジムは  
初めてアシュラムに参る事が  
出来ました。

シメオンの家、またラビリンクスを  
自分の目で見て体験できて  
ただただ主イエスに賛美する  
しかありません。

アシュラムの皆さんがイエスにかと  
励まされ多くに恵まれるように  
いから祈ります



↑朝のシメオン黙想の家の庭は、キャロルサク師奏でるハーブと歌に包まれ...



↑キャロル師の祈りが優しい歌声、ハーブの音色となって心の奥に。そしてまた祈りへ。



↑おいしい野菜のおかず。モミジは、シメオン庭より、吉田すみ多姉のアイデア。



↑キャロル師、空児のプログラム後の夕食は、玄米菜食。なんと恵師の要望。キャロル師も大好きとの事。皆様は？

↑※(ジム→ジェームズ・サク師)リトリート一日目ご奉仕。一月号に手紙文掲載。

私は、毎朝レビの時を守り、一日一章をほぼ休みなく続けておりました。それが、一日とび、三日とび、とうとう一カ月も聖書を開くことも祈ることも出来なくなり、朝起き上がれないのです。心がかさかさになり、ささくれた気持ちで日々を過ごしておりました。アシュラムに行きたい、静まって主とお話が出来る日を取り戻したいと切に願っていました。

そんな時、加太アシュラムの案内をいただきました。二泊三日に迷いましたが、何とかしてレビの時を取り戻したい、そして、皆さまに祈っていたのだと思います。参加を決めました。それは、今の私に必要なのは静まって祈ることである。その一番大切なことが出来ていないと気づいたからです。今回の主題は「神の力による信仰」でした。私は、今まで問題の解決は自分の力で、また、人の力でなんとか努力して良くしようと頑張っていました。しかし、いくらあがいてもどうにもならなかったのです。オリエンテーションにて、黒田師の「出発点を思いかえす」の薦めによって今までのさまざまな事を思い起しました。私の過去の信仰の実態を思い出したのです。

その時、神さまは私に手を差し伸べて下さったのです。問題が良い方向に転換したのです。本当に助けられたのです。開会礼拝の中で、「信仰の差し込みはどこに入って居ますか?」と問いかけがありました。静聴の時にその時のことを再び思い出しました。その時、私はその問題に対して、自分の思いや努力で何とかしようと思っていたのです。神さま神さまと祈っていましたが、もうどうにもならないとあきらめた時、でも諦めきれずにあがった時、そして、疲れ果てて泣き伏した時、その時、奇跡とも思われる展開があったのです。



奇跡とは十年近く閉じこもり生活を送っていた娘が、ある日、今治教会の事務の仕事にと呼んでいただいたのです。その日から今まで十七年間休みなく働かせていただいていることです。

今思うと、私はそのとき、神さまの力にささえられていることを感知していたかどうか、神さまを信じてい

ただろうか。それなのに、神さまは暗闇で悶えていた私を救い出してくださったのです。

あの日以来、ありがとうございます。ありがとうございます。感謝の日々が送れるようになつていきます。「信仰の差し込み」は、神さまに繋がりました。本当にありがとうございます。

今は、毎朝レビの時を守り、感謝の祈りをしております。レビの時が守れなかった時は、信仰の差し込みが抜けかけていたことに気付かされたのです。

また、早天祈祷の奉仕者の薦めによって、神さまは私たちに助け手を送って下さる。その真理の聖霊様が私たちと共に住み、私たちの内に

おられる。日々になしうることは、すべて助け手

によって支えられていると力づけられました。

また、神さまの存在を確信しながらの御言葉聴従の実体験の数々の証しに感動しました。まさに今回のテーマの「神の力による信仰」の証しでした。

私の証しの時も、最後に賛美歌五百十番「まほろしの影を追い」をファミリーと参加者全員で賛美の応援をいただき嬉しかったです。

今回の加太アシュラムに参加して、心の渴きも潤され、毎朝のレビの時も戻って来ました。先生方を通して御言葉の養い、皆様方とのふれあい、祈り合い、宿舎からの絶景、食の豊かさ、恵み溢れる三日間でした。すべての事を主に感謝いたします。

(日本基督教団)

今治教会

—アシュラムセンター開設50周年を2年後に控えて—

「手を伸ばしなさい」そのとおりにすると、その手は元どおりになった。ルカ6・10 榎本 保郎

或る時、右手のなえた人が、いやされる事を求めてイエスの許に来た。主はこの人に向かって「手を伸ばしなさい」と云われた。随分無茶な言葉である。

手を伸ばすことが出来ないから、来ているのである。その人に向かって「手を伸ばしなさい」とは全く無理な注文である。

所が、聖書は驚くべき事を報じている。即ち「そのとおりにすると、その手は元どおりになった」と記している。一体どうして、この人は「そのとおりにする」事が出来たのだろうか。

確かにこの人にとって、「手を伸ばす」と云う事は不可能な事柄であった。しかし、この人はそこに立ち留らなかったのである。彼はそこに呼びかけ給う主の言葉に生きたのである。その時に「そのとおりにする」事が出来たのである。私共は神の言を聞く。そして屢々「それは無理だ、どうして出来そうにない」と云って従おうとしない。これは御言よりも現実を確かとしている事であり、創造の神、全能の神、愛の神を信じない事である。信じないものは神の栄光を見る事が出来ない。

何処までも語られて来た御言を確かとして生きて行く所に私共の信仰生活があり、恩恵の世界があるのである。

(1962.10発行「ガリラヤ」聖句短言より)



今治教会分室前で。幼い恵師、てる子師も!

### アシュラムセンター早天祈祷会の皆さま

誕生日のお祝いカード有難うございました。和子先生がお元気で早天を支えてくださっていることを感謝しています。先日、ふとしたことで梅光学院という名を聞き、そこは長年るつ子さんがご奉仕なさった学校だったな、となつかしく思い出しました。恵先生には大阪聖書教室のために労してくださっていることを感謝しています。

私は、旧制高校1年を終えたとき、主治医の若い女医さんから、腎臓は慢性化し一生治らない、でも大事に使えば10年やそこらもつわよ、と言われて、我が人生30までか、と思い定めたのですが、90歳まで生かしていただいています。感謝です。そのときは死を考える暗い日々と思っていたのが、今考えると、若い時に死を思うように導く主の恵みの備えだったのだ、と感謝しています。

今はコロナの騒ぎの中で、来客も、出かけることもなく、人を避けながらウォーキングを楽しみ、長く歩けないので公園や遊歩道の腰掛で休み、祈りの時をもつ、静まりの日々を楽しんでいます。

それに思いがけないことに、絢子がゲストブックにサインしてくださった方々の思い出を書くように勧められ、その作業の手伝いをしているうちに、巻き込まれて私も書くようになり、自分たちの人生を思い巡らし、主の大きな恵みの流れに流されてきた人生だったのだ、ということに気づき、主に感謝を捧げました。ピュルキ先生に自分の人生を思い返すことの大切さを教えられながら、できていなかったことをさせていただいたことを感謝しています。

アシュラムセンター早天祈祷会の皆さま方の上に主の御祝福をお祈り申し上げます。

唄野 隆

2021年7月11日

\* \* \* \* \*

2022年11月29日夕食の時、隆はすっと意識がなくなり、瞬間に天にあげられました。大動脈解離だったとのことです。家族の賛美に送られ、まるでエノクが神に取られたような主の召しでした。このレター発送のため、400通余りの宛名を書き終えたのはほんの数時間前のことでした。振り返るとここ数ヶ月、懐かしい兄弟が何人も訪問くださり、長年にわたる豊かな交わりを喜び感謝し、共に主をほめたたえる時が与えられてきたことは格別な恵みでした。お見合いの日に「今日読んだみことばを分かち合いましょう」と隆が開いてくれたローマ11章36節のみことばが心に響きわたっています。

祝  
御降誕  
ニ〇二二年クリスマス  
唄野絢子

すべてのものが  
神から発し  
神によつて成り  
神に至るのです。  
この神に  
栄光がとこしえに  
ありますように。  
アーメン  
ロマ士・三六

早天祈祷会おひとりおひとりに、主の御祝福とお守りをお祈りいたします。

野村裕子



←合同平和祈祷会、神戸イエス団の上内鏡子師、教会員皆様の手作り映像を用いながらの平和礼拝でした。



←この時を楽しみにご遠方から来られた皆様に感謝！  
第2回リトリートアシュラム5日目（最終日）の恵み。

→恒例のクリスマス愛餐会。京都、みんなのカフェいろいろ 大山謙一、悠子母お心づくしの馳走！



→信仰パワフルな阪神アシュラムの皆様。4月予定の一日アシュラムも多くの方が集われますように！



（誕生日カード感謝のお便りより）恵先生の「点」が線となるように祈り続けましょう。そして、試練を通して又、恵みを与えて下さると信じて顔を上げました。心に刻んで祈って参ります。

### 主幹牧師の2022年度の振り返りと2023年ビジョン(1)

第48回  
年頭アシュラムにて  
語られた

最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。

エフェソ6：10-12

あなたがどこにいても、あなたに何が起ころうとも、語るべく与えられた言葉を、それが何であろうと、ただ語ってください。ただ忘れてはなりません。語ると言う行為そのものが、神の言葉を動かし始めることなのです。あなた自身が進んで声に出して語る意思を与えられたと言うことそのものが、闇から光を分け、地を命あるもので満たしたあの時と同じように、神の言葉が生きて働く言葉であることの証明なのです。あえて冒険して、神の言葉を持って新しい世界を創造しなさい。

平野克己「あえて冒険して説教をしよう」より

### 2022年度の振り返り

2022年のアシュラムセンターの働きを顧みる時、この3年余りの間、繰り返してきた言葉の羅列がどうしても出てきてしまうのです。「コロナ禍」、「アシュラム集会の変更・中止」、「アシュラム参加者の高齢化と減少」。そんなネガティブな言葉ばかりが、浮かんできてしまうのです。確かに、ここ数年のアシュラム運動、そして日本の教会の直面している現実、また混乱を極める世界情勢は、決して明るいものではなかったでしょう。

疫病の流行や天変地異、戦争や戦争の噂、そして偽預言者の出現。それらは皆、主が、「終末の徴」として挙げられたものです。コロナ、ウクライナ戦争、気候変動、政治、経済の混乱、おまけに「旧統一協会」などカルト宗教の隠然とした影響。そんな出来事の数々を数え上げる時、私たちは、もう世の終わりは近いのではないかと思うかもしれません。

しかし、「そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない」(マタイ24：7)のです。世の終わりを思わせるような出来事を前にしても、慌てることなく、落ち着いて静かにしていること、これこそが、み言葉に聴き祈ることを旨とするアシュラムの本領発揮の時ではなかったかと思うのです。

確かに、計画された集会の多くは、コロナ前と比べると、参加人数は激減しています。昨年の第47回年頭アシュラムは、リアル参加者15名、Zoomでの参加者も入れ全部で24名。3年前と比べると半減しています。他のセンター主催のアシュラムも、また毎月の聖書教室も軒並み参加者が減ってきています。先日行われた第2回リトリートアシュラムなど、参加者の人数より講師の人数の方が多いという、そんな惨憺たる状況でした。(続く)



リトリート最終日には、神戸より阪神アシュラムの友が！感謝！写真左から、山田ご夫妻、青木兄(滋賀)瀬戸姉、恵師。

### あとがき

新しい年が始まった。このアシュラム誌が届く頃、私は台湾、ブラジル、ニューヨークへの殿堂の旅についている頃だろうと思う。

3年の間、海外のアシュラムとの交流が途絶えていた。コロナのせいで、アシュラム誌自体も届かなくなっていた。遠く離れている海外の友と、ますます遠のいていつてしまうのではと、恐れていた。しかし、主はこの時をも、私たちの間に立ち続け、導いてくださっていただくことに感謝する。

まだまだ、コロナの勢いは治らない。また、ニュースでは、海外の不穏な情勢ばかりが報道される。しかし、彼の地にあって、私の訪問を心待ちにしてくださっている多くの友がいる。パウロが、各地の教会宛の手紙の中で、顔を合わせ、直接会いたいと切望したように、私も台湾の、ブラジルの、そしてまだ見ぬ世界の友と出逢いたいと願っている。どうか祈りを合わせていただきたい。

(恵)

何時もお祈り支え続け下さる皆様へ感謝を込めて。今年もよろしくお願ひいたします。兔年の始めに...

中止、又はオンラインに変更もあり。ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

2月の聖書教室など	
3(金)	阪神ミニアシュラム (神戸聖愛教会 PM1:00)
7(火)	Zoom聖書教室 (AM10:30、PM7:30)
11(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
20(月)	箴言に学ぶ会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
22(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)

【主な問い合わせ先】  
0748-33-4030  
アシュラムセンター

2月のアシュラムなど		
13(月)	台湾愛修会	0748-33-4030
15(水)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
19(日)	ブラジルルージュアシュラム	0748-33-4030
21(火)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター
26(日)	ブラジリアアシュラム	0748-33-4030
27(月)	奉仕者 榎本 恵師	アシュラムセンター

3月のアシュラム予定	
3月4(日)	ブラジルアシュラム

4月以降のアシュラム予定	
4月29(日)	阪神一日アシュラム
6月17(日)	新潟一日アシュラム
9月28(木)~29(金)	第11回 日光オリーブの里アシュラム
10月30(月)~11月1(日)	第18回 国際正義平和アシュラム

### みことば

ノースカロライナ大学院生  
Zoom聖書と学ぶ会  
榎本 空

わたしの魂を枷から引き出してください。あなたの御名に感謝することができますように  
詩篇142篇 8節

伊江島は暖かい日々が続いている。新年からほとんどを半袖で過ごしてきたし、今日も、日本中がこの冬一番の寒波に見舞われる中、タートルネック一枚で間に合っているほどだ。

さて、新しい年。改まって書くほどのことでもないが、今年は庭作りに励みたい。あそこはハーブ、あそこはいちご、トマトやじゃがいもなんかもいいんじゃないかと、荒れ果てた庭を見ながらあれこれ想像している。なんでも形から入ってしまう方だから、農機具を一通り揃えて満足してしまうかもしれないけど。

新しい本の翻訳も、今年に入って日々取り組んでいる。ある黒人の学者の本で、ずっと翻訳したいと願っていたのだが、ようやく念願が叶った。翻訳の作業は、土を耕すことと似て気の遠くなるものであるが、いい翻訳になるよう頑張りたい。この本が翻訳できたら、沖縄について書けると思う。以上、近況報告までに。

新しい年、多くの人とそのくびきから解放されることを願う。



←ダビデは主の箱をエルサレムへ運び入れた時、跳ね踊りました。その姿を冷ややかに眺めた王妃ミカル。やがてこの年を、どう迎えます。跳ね踊るのか？それとも、さげすむのか？主の箱はもう目の前に。

→昨年の年頭アシュラムにて。今年は床の中より祈りの参加。



和子母のためにお祈り感謝です。「うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行っても、あなたの神、主は共にいる。」

大雪の日、電車内で夜明けを待つ、るつ子姉から届いたみことば。(翌日、なんとか帰宅。誕生日3日前！) 続



伊江島 わびあいの里にて

←水やりが、筆者の仕事。「花よ」と、阿波根おじいより。